

船舶工兵第五連隊 (暁第六一七三部隊)						年 月 日	略 歴	摘 要
昭 17	8	31	17	17	17	18		
	9	上旬	12	上旬	1	18		
	12	中旬	12	中旬	1	18		
	5	下旬	5	下旬	1	18		
軍令陸甲第五二号により「ラバウル」に於て独立工兵第一〇連隊を編成 改組により船舶工兵第五連隊と改称同日編成完結。 「ガダルカナル」島作戦に参加。 「ガダルカナル」島撤退。 「ニューブリテン」島「ラバウル」着。 より一月八日迄「ニューギニア」島「ラエ」に対する岡辺支隊の強行輸送作 戦に参加。 主力は東部「ニューギニア」島「ウエワク」に在りて第二〇師団の「マンバ レ」上陸作戦に参加。第三〇及び第四一師団の「マダン」に対する軍需品の輸 送作戦に参加。一部を「ギリゲ」に派遣す。 主力「マダン」に進出同地に在りて「マダン」「ラエ」に対する軍隊軍需品の								

0733

						昭
19		19	19	19	18	18
4		3	1	1	8	7
下旬		13	下旬	中旬	下旬	下旬
「ムシュ」島及「ダブア」附近に在りて「ウエワク」「マルジツブ」方面に對品の輸送作業に従事。 以後四月下旬まで該地に在り「ウエワク」「マダン」「ハンサ」間の軍隊軍需品の輸送作業に従事。 「ウエワク」「ムシュ」島着。 「ガリ」に至り潜水艦よりの軍需品揚搭作業に従事。 「ウエワク」方面に転進のため「ガリ」発。 「シオ」出発。 水艦よりの軍需品揚陸作業に従事。 主力「シオ」「ナブリバ」着。「ギリゲ」派遣員到着主力に復帰す。 「ラエ」「フィンシュホハーヘン」方面に對する軍隊軍需品の強行輸送並に潜水艦よりの軍需品揚陸作業に従事。 主力「フィンシュホハーヘン」出発。 より「ダンピール」海峡突破輸送作戦に参加。 主力「フィンシュホハーヘン」出発。 強行輸送作戦に参加。						

20	20	20	20	20	20	19	19	19
10	9	6	4	3	3	11	11	9
	2	中旬	上旬	下旬	5	下旬	上旬	上旬
する軍隊軍需品の強行輸送作業に従事。 「ムシュ」島に在りて「ウエワク」「ハンサ」「ブーツ」及び「カンダナム」方面に対する軍隊軍需品の輸送作業に従事。 主力は自治体制確立のため「ムシュ」島発。一部は「ムシュ」島に残留。 「セビツク」河流域「コロリー」河附近着。 昭二十年三月上旬迄「ムシュ」島「セビツク」流域附近に駐屯する各部隊に対する軍隊軍需品の輸送作業に従事。 「アレキサンダー」山脈戦闘参加のため「コロリー」河発。 「オニヤヒーブ」附近着。 「カラフ」「マルンバ」附近の戦闘に参加。 昭二十年八月中旬まで「チヨログン」「アラカンヘッド」「カボエビス」附近の陸上戦闘に参加。 「カボエビス」附近に於て終戦。 「ムシュ」島集結。								

0735

昭和										年月日	略歴	摘要
20	19	19	18	18		17	17	17	17			
7	4	3	7	5		11	10	9	8			
連隊の主力は中千島択捉島に、一部は北千島幌筵島柏原に移動し次の通り配置を完了 連隊主力小樽に移動す。 迄連隊は幌筵島柏原に位置し揚陸作業及び同方面の局地輸送に任ず。 「キスカ」島派遣の一ケ小隊柏原に撤退す。 「アツツ」島派遣の一ケ中隊小林少佐以下玉砕す。 に派遣す。 主力は幌筵島柏原に位置し一ケ中隊を「アツツ」島に一ケ小隊を「キスカ」島に派遣す。 北千島に転進。 小樽出発。 小樽へ転進。 軍令陸甲第五二号に依り独立工兵第三六連隊を改編し広島に於て編成完結。												

0737

20	20	
8	8	
28	15	
		了し揚陸作業及び局地輸送に任ず。 「本部」 択捉島留別 「第一中隊」 主力択捉島留別。一ヶ小隊天寧。 「第二中隊」 主力は小樽に第四小隊（合第三小隊の一部）は択捉島留別に本田少尉以下九二名は北千島幌筵島柏原に位置す。装甲艇及び大発動艇により局地輸送に任じ八月二日古丹島に於て米軍の空爆により一名戦死す。 「第三中隊」 新知島松輪島。六月幌筵島梅木速毛沖温称古丹島附近に於て輸送業務中米機の空爆により一五名戦死す。 千島に於て停戦。 主力ソ軍により武装解除。

0738

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

昭和							年
20	19	18	18	18	17	17	月
5	2	12	9	7	12	11	日
3	1	25	26	20	9	10	日
第七揚陸隊將校以下一〇九名転入。 に、「スンバ」島派遣隊は「スンバ」島に位置す。 同一ケ小隊は「スマトラ」島に、第二中隊は「タニンバル」及び「アル」諸島に、「スンバ」島派遣隊は「スンバ」島に位置す。 本部第三中隊及び材料廠は「ケイ」諸島に、第一中隊主力は「チモール」島に、 二ケ小隊を臨時揚陸隊として「スンバ」島に派遣す。 に第二中隊を残置す。 連隊主力は「タニンバル」諸島より「ケイ」諸島に転進、「タニンバル」諸島に第二中隊を残置す。 「タニンバル」「チモール」島に各一ケ中隊を配置す。 小隊を「スマトラ」島に派遣す。 連隊は比島より爪哇島を経て「チモール」島に転進す。此の間第一中隊の一ケ小隊を「スマトラ」島に派遣す。 軍令陸甲第八三号に依り比島マニラ市に於て編成完結。							略
							歴
							摘要

船舶工兵第七連隊

(暁一〇六五一部隊)

0740

							昭
			21	21	21	20	20
			6	6	3	9	7
			21	17	5	2	5
部隊長	初代	中佐	友末	昇	連隊は「ケイ」諸島及び「ケイツラ」島の兵力を「トアール」に集結す。	「チモール」島第一中隊長以下二六二名船舶工兵第一三連隊に転属す。	第三船舶廠第二支廠以下三〇六名及び同第二移動修理班長以下五八名転入。
二代	大佐	桑原	支那吉	連隊主力は「トアール」出発。	保坂中尉以下六六名第四八碇泊場司令部に転属。	「トアール」に於て終戦。	
三代	少佐	萩原	吉	田辺港上陸。			
				復員。			

0741

昭和									年月日	略歴	摘要
18	17	17	17	17	17	17	17	17			
1	12	12	12	12	12	12	12	12			
5	26	14	13	9	8	8	8	8			
軍令陸甲第一〇〇号に依り満洲（関東軍）において独立工兵第二三連隊を改編し編成完結。 船舶司令官の隷下に入る。 船舶兵団長の隷下に入る。 富拉爾基出発。 朝鮮国境通過。 釜山港出発。 宇品港上陸。 宇品港出発。 「ビスマルク」諸島「ニューブリテン」島「ココボ」上陸。「ツルク」に位置し「ダンピール」海峡方面の舟艇輸送に任ず。											

0742

昭	至自										至自
20	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
9	7	10	103	5	3	3	2	2	2	2	21
2	15	1	3114	20	28	11	28	25	25	106	
「ソロモン」諸島船舶作戦に参加す。 第一八軍司令官の指揮下に入る。 第五一師団長の指揮下に入る。 「ニューブリテン」島「ココボ」出発。 第八一号「ラエ」作戦に参加す。 「ニューブリテン」島「ココボ」出発。 大陸命第七八号により船舶団の編成に入る。 「ニューギニア」島船舶作戦に参加す。 大陸命第八四八号により船舶兵団の編成より離れ、第四船舶輸送隊の編成に入る。 大陸命により第八方面軍司令官の隷下に入り現地において地上部隊に改編せられ独立混成第五及び第一四連隊に編入。 「ニューギニア」島において終戦。											
部隊長 大尉 菊地 孝											

0743

昭和										年 月 日	略 歴	摘 要
18	18	18	18	18	18	18	17	17				
2	2	1	1	1	1	1	12	12				
11	9	28	21	20	6	1	16	5				
一部「ラバウル」到着連隊長の指揮に復帰す。 一部「エレベント」出発「ラバウル」に向う。 主力「ラバウル」到着、次期作戦準備。 出発。 主力「バラオ」に於ける訓練を完了し「ニューブリテン」島「ラバウル」向け 共にその一部は「ガダルカナル」島撤退輸送に従事す。 一部「トラツク」島を経て「ブーゲンビル」島向け出発。 一部は「ブーゲンビル」島「エレベント」錨地到着、第六師団の揚陸を行うと 「バラオ」到着。 第六師団と共に呉淞沖出発。 上海に於いて編成完結。												

船舶工兵第九連隊 略歴

(既第九四二一部隊)

0744

至 自												昭
20 20 19 19 19 19 19 19 18 18 18 18												
8 1 10 8 7 6 5 4 1 9 6 3 2												
14	16	11	11	1		20	12	23				
「ラバウル」出発「バラオ」を経て「ニューギニア島」「ハンサ」に向う。 「ハンサ」上陸。 連隊本部「マダン」に前進。 爾後「マダン」「サラモア」間の軍隊軍需品の強行輸送に従事。 「マダン」「フィンシハーヘン」及び「ガリ」間の輸送に従事。 爾後「マダン」「ミンデリー」及び「ハンサ」間の輸送に従事。 連隊主力は「ラム」河下流に位置し「ハンサ」「ウエワク」間の輸送に従事。 主力は船艇一部は陸路に依り「ムシュ」島に集結。 「ボイキン」出発。 「ソナム」に転進「マルシツブ」への軍需品の陸路担送に従事。 「ダグア」に反転集結。 「セビツク」地区に転進。 「カウブ」材料廠及^{6/102i}を指揮し海岸地区警備。 前記地区にて警備及び自活。												

0745

					昭
		21	21	21	20
		2	1	1	10
		6	31	17	2
		復員。	浦賀上陸。	「ムシユ」島出発。	「オーム」岬通過「ムシユ」島集結。
				駐屯地出発。	「ウエワク」に於いて終戦。
	部隊長				
	大佐				
	織田				
	義重				

0746

昭										年 月 日	略 歴	摘要
19	19	19	19	18	18	18	18	18	17			
11	10	10	10	9	8	8	8	8	12			
7	16	16	13	1	28	20	15	12	25			
「ポートブレア」港着、上陸。 主力、移駐のため「アンダマン」島「テロクニボン」港出発。 「ポートセツテンハム」上陸。 第一中隊の一部「ベラワン」出発。 「スマトラ」島「ベラワン」上陸、同地附近の警備。 昭南港出発。 昭南港着、上陸。 壘公寄港。 上海呉淞出発。 結。												
軍令陸甲第一〇〇号により独立工兵第五三大隊を基幹として上海に於て編成完												

船舶工兵第一〇連隊

(暁第九四二三部隊)

略歴

0747

	21	21	21	21	20	20
	5	5	1	1	9	3
	25	21	13	9	2	1
南方軍の隷下に入る。 「アングマン」島「ポートブレア」に於て終戦。 第一中隊馬來残留隊は同地に於て終戦。 主力「ポートブレア」出発。 「レンバン」島上陸。 復員。 馬來残留隊「シンガポール」より田辺港に上陸。 部隊長 中佐 横尾 紋太郎						

0748

1100

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

至	自	至	自
19	18	18	18
1	5	5	3
29	11	10	18

「ラングーン」到着。

第五五師団長（楯兵団長陸軍中將古閑健）の指揮下に入らしめらる。

「タカンカッブ」に位置し「タウンカッブ」地区警備隊長として歩兵第一大隊（黒岡大隊）架橋材料第二二中隊、独立自動車第五大隊、同第二三六中隊、独立輜重兵第五大隊等を併せ指揮し「アキヤブ」以南「サンドウエイ」に到る。

「アラカン」沿岸地区「ラムレ」「チエドバ」島並びに「ブローム」地区の警備。

楯俊方輸送隊長として船舶工兵第一連隊主力船舶工兵第四連隊第三中隊を指揮し「タウンカッブ」「アキヤブ」間の水路による軍需品の輸送に従事。

「タウンガッブ」地区の警備及び「タウンガッブ」一、

「アキヤブ」間楯兵団向け軍需品の水路輸送に従事五月一〇日以降第一中隊の一ケ小隊は第一五軍に配属「カレワ」に位置し「チンドウイン」河の水上輸送に任ず。

九月一三日以降第五四師団長へ中將片村四八、十二月一五日以降第一船舶団長

至	自	至	自	至	自
19	19	19	19	19	19
11	9	7	6	5	1
30	20	19	1	31	30
(少将鈴木義三郎)の指揮下に入らしめらる。 連隊は依然「タウンガップ」に位置し「アキヤブ」地区に対する第五師団向け軍隊軍需品の水路輸送及び新防衛態勢に即応して「ラムレ」「チエドバ」両島「サンドウエイ」地区に対する第五師団兵力の海上輸送に従事。 ①第五師団の「ブチドン」「モンドウ」前面地区に於ける進攻牽制作戦(八号作戦)に呼応し更に「アキヤブ」方面に対する水路輸送に任じ「ラムレ」「チエドバ」離島方面に対する海上輸送に従事す。 「ウ」号主作戦及び「アラカン」前戦共に敵の反攻により進攻停顿しありしも、連隊は依然前任務を続行「アキヤブ」方面「ラムレ」「チエドバ」両島への水路輸送並びに海上交通確保に努む。 以降第三船舶輸送司令官(昭南)に隷属し第二八軍司令官の指揮下に入らしめらる。 「ビルマ」全戦線に亘り転進作戦開始。 連隊は軍の配備変更に応じ勇兵団(一部)の「サンドウエイ」よりの転進輸					

0751

昭至 19	自 19	至 20	送（サ号演習）を処理し、船舶団の沖繩転進に伴ひ第二八軍司令官直轄として策 水路輸送隊長となり船舶工兵第一連隊主力、海上輸送第三大隊、独立輜重第五 一大隊、水上勤務第三八中隊、特設水上輸送第二二中隊を併せ指揮し第五師団 主力（壮兵団）の「イラワヂ」デルタ地帯への転進、第五四師団の兵力新配置の ための水路輸送作戦（チ号演習）に部隊の全能力を傾注して一一月末日迄に「ア ラカン」地区の転進作戦を完遂せり。 第三船舶輸送司令官に隸属し依然第二八軍司令官の直轄として「テナセリウム」 地区転進後は「ビルマ」方面軍司令官の指揮を受け五月一五日以降、森船艇運航 隊長（第一二揚陸隊長大佐安広年雄）の指揮に入る。 連隊は一二月上旬海路「イラワヂ」デルタ地帯に転進（第一中隊のみ兵兵団に配 属「アラカン」地区に残置）主力を以て「カチャ」附近（蘭貢西方約二五軒）に 位置しデルタ地帯に於ける敵反攻に対する次期作戦準備竝に壮兵団の兵力配置の ため「イラワヂ」河各地域の水路輸送、渡河点の構築鉄道隊に協力「ヘンサダ」 に於ける米穀航送等各種作業に任ず。
11	12	5	
30	1	21	

0752

昭至 20	5	21
二月下旬戦況の推移に伴ひ壮兵团主力（忠兵团）の「トングー」前戦への転進 作戦のための兵力緊急輸送を処理しヌデルタ地帯敵反攻破砕のため「と」号突 撃艇を以てする特攻隊を編成し「ラングーン」河「カナウン」に於て猛訓練を 行う。 二月九日第二中隊千島より連隊主力に復帰し、二月下旬泰国「バンコック」に 転進す。 四月下旬戦況急迫に伴ひ主力をもつて策兵团患者輸送を行うと共に「モールメ ン」附近に転進、一部を以て「ヘンサダ」「ブローム」附近に於ける渡河を命 ぜらる。 連隊主力は四月二七日より転進行動開始「マルタバン」湾を横断「モールメン」 に海上突破を企画せし第二艇隊以下は五月一日、二日「ラングーン」河口附近 に於て敵空艇隊及び艦艇の上陸に遭遇し之と交戦殆ど間断なき敵機の砲爆撃に より舟艇の大半を喪失し遂に「シッター」湿地帯を陸路転進す。 五月中旬部隊主力は「モールメン」附近に集結し森船艇運航隊長の指揮下に入		

0753

昭 至 20	自 20	至 20
5	5	8
21	22	14
る。 連隊主力は「ザタビン」(モールメン東北一五料)に位置し船舶工兵第四連隊第三中隊を指揮し「サルウイン」河本流「カスマン」―「バーン」―「モールメン」間同支流「チャイン」河による「コーカレイ」方面に対する兵力、軍需品の水路輸送に従事又「サルウイン」河本支流の河川偵察を実施する等次期作戦準備に邁進す。 七月上旬一部艇隊を「ピリン」方面に派遣し同地の渡河作業に従事す。 第一中隊第三中隊、材料廠の一部は「アラカン」より或は「イラワデ・デルタ」地帯より陸路「ベグー」山系「イラワデ」「シツタン」の難関を突破し転進。 「モールメン」に於て終戦。		
部隊長 中佐 石村 卓		

0754

昭和	至自				至自	年月日	船工兵第一連隊 (暁第二九五八部隊)	略	歴	摘要
	1918	18	18	18	18					
	311	108	8	7	5					
	241	3128	27	26	30					
軍令陸甲第三四号に依り中支那「上海」に於て編成完結。 南東方面転進のため上海出発。 「ニューブリテン」島「ラバウル」着。 「ラバウル」を基点として「ニューブリテン」島及び「ニューアイルランド」島前線各地に対する舟艇輸送に従事すると共に上陸戦の訓練実施。 ①一八年一〇月二六日第二剣部隊要員として歩兵第一七連隊三輪少佐の指揮下に入りたる歳森康正中尉以下一六二名は一二月七日「ボーゲンビル」島「タロキナ」西方約三軒「ラルマ」河口附近に逆上陸。 ②連隊主力は依然「ラバウル」南崎に位置して舟艇輸送に従事すると共に舟艇格納用洞窟を構築す。 ③二月二〇日第一七師団及び第三八師団歩兵、第六五旅団の「ツルブ」「ガス										

0755

		至自	
20	2019	19	
9	811	7	
2	151	15	
		マタ「マーカス」方面より「ラバウル」集結に伴い之が転進輸送（カ号作戦）を開始す。 第一次補充員將校以下約一二〇名到着。転出者一七名。 軍令陸甲第六七号に依り編成改正を実施す。転入四五一名、転出二五〇名。 引続き「ラバウル」周辺に対する舟艇機動輸送陣地構築、並に諸訓練に従事中停戦に至る。四月一五日転入三名。転出三〇名。 「ラバウル」に於て終戦。	
部隊長			
中佐 北村連三			

0756

昭和										年 月 日	略 歴	摘 要
21	20	20	19	19	19	19	19	18	18			
5	12	9	4	4	4	3	1	12	12			
18	10	2	23	10	9	6	10	1	1			
軍令陸甲第一一二号により臨時編成下令。 比島「ネグロス」島に於て第三野戦船舶廠第四支廠の人員を基幹として編成完結。 部隊転進のため「ネグロス」島「ブルバンダン」出発。 「フロレス」島「マルメラ」上陸。 「マルメラ」出発。 「チモール」島「クーバン」上陸。爾後終戦まで小「スンダ」諸島に於て船舶輸送作戦に参加。 「フロレス」島「マルメラ」に於て終戦。 「スンバワ」島「ブラジャツク」に部隊集結。 「スンバワ」島「バタス」出発。												

0757

	21	21
	6	5
	2	31
復員。 名古屋港上陸。 部隊長 中佐 中村俊雄		

0758

昭和					年月日	略歴	摘要
19	19	19	19	19			
9	5	3	1	1			
		末	10	10			
軍令陸甲第一一二号により、比島「レイテ」島に於て満洲より転進せる独立工兵第二四聯隊主力を基幹として船舶工兵第一四聯隊編成完結。 より一九年三月一日まで比島「レイテ」島「オルモック」に於て次期作戦準備。 より一九年四月まで濠北「アンボン」島に転進、同地に於て「ケイ」諸島へ転進準備。 より同年八月まで「ケイ」諸島に転進「トアール」に位置す。但し聯隊の一部（第一中隊主力及び第二、第三中隊材料廠の一部）は依然「アンボン」島に在り。 聯隊は「セラム」島に転進。前項在「アンボン」人員と合す。 但し聯隊の一部（第二中隊主力及び第三中隊の一部）は依然「トアール」に残留す。							

0759

		21	20	20	20	20
		2	8	8	8	6
		21	25	15	14	
より二〇年八月まで聯隊主力は「スラバヤ」に転進。 前項在「ケイ」島人員追及し聯隊主力に合す。但し聯隊の一部（材料廠主力） 及び本部第一、第二、第三各中隊の一部は依然「セラム」島に在り。 爪哇島「スラカルタ」候地「ボヨラリ」県「ムス」村に集結。第一中隊主力及 び本部第二、第三中隊の一部（將校九名下士官三八名、兵二一七名）は「ロン ボック」及び「バリ」島に集結。 「ジャワ」島に於て終戦。 在「セラム」島人員（將校七名、下士官五一名、兵二〇七名）は船舶工兵第二 〇聯隊に転属す。 第三船舶輸送司令部爪哇支部の一部（將校七名、下士官一八名、兵六六名）転 入す。						
聯隊長	初代	中佐	河野	通義		
二代	少佐	生田	乙吉			

0760

昭和										年 月 日	略 歴	摘要
20	19	19	19	19	19	19	19	19	19			
6	12	11	11	9	5	4	3	3	1			
28	2	28	6	18	27	2	26	17	10			
「メルギー」発。 緬甸国「メルギ」着。 泰国「カオハーシ」発。 泰国「カオハーシ」着。 「ピナン」島発。 「ピナン」島に進駐局地輸送業務に従事。 昭南上陸。 仏印西貢発。 仏印西貢に上陸。 一部を基幹として比島「レイテ」島に於て編成完結。 軍令陸甲第一一二号により独立工兵第五〇二隊の大部、独立工兵第五二〇隊の												

0761

昭和									年 月 日	略 歴	摘 要
19	19	19	19	19	19	19	19	19			
8	8	7	6	4	4	3	3	3			
11	3	7	15	11	上旬	17	17	17			
軍令陸甲第一一二号に依り宇品に於て編成完結。 独立工兵第五〇大隊「サイパン」島に於て船舶工兵第一六連隊に改編。 宇品港出発。 「サイパン」島上陸。同日より附近一帯の警備に任ず。主力は「サイパン」島に位置し、一部を「グアム」島「テニヤン」島に派遣す。 米軍「サイパン」島に上陸す。 主力「サイパン」島に於て玉砕。 「テニヤン」島派遣隊玉砕。 「グアム」島派遣隊玉砕。											
部隊長 恒川政市 少佐											

0763

昭							年 月 日	略 歴	摘 要
20	20	19	19	19	19	19			
9	7	7	4	4	3	3			
2	18	22	22	10	28	17			
父島に於て終戦。									
小笠原兵団に隷属。									
一部硫黄島派遣、同日より同地附近の警備。									
父島二見港着。同日より同地附近の警備。									
東京港出発。									
字品出発。									
軍令陸甲第一一二号に依り広島に於て編成完結。									
部隊長									
少佐 相川 順一郎									

(暁第一六七〇一部隊)

船舶工兵第一七連隊

略歴

略

歴

摘要

0764

0765

至自							昭	年 月 日	船 舶 工 兵 第 一 八 連 隊 (暁第一六七〇二部隊)	略 歴	摘 要
19	19	19	19	19	19	19	19				
9	9 6	7	7	6	5	3	3				
10	149	30	1	9	10	19	17				
第一、二中隊を「ガレタ」地区に派遣し同地区隊長の指揮下に入らしむ。 路構築、並に「ヘヤホール」附近の警備に任ず。 の輸送（春船舶隊長の直轄として一ヶ艇隊局地輸送に任ず）揚搭及び陣地、道 主力「ヘヤホール」地区、一部「ロニー」地区に在りて「ハルマヘラ」島附近 第三二師団長の指揮下に入る。 船舶兵団長の隷下を脱し第三船舶輸送司令官の隷下に入る。 「ハルマヘラ」島「ヘヤホール」上陸。春船舶隊長の指揮下に入る。 濠北派遣のため似島出発。 似島に於て次期作戦準備、教育訓練に任ず。							昭一八年軍令陸甲第一一二号に依り独立工兵第五八大隊を基幹として宇品に於て編成完結。（総員一〇六〇名）				

0765

						至自
	20	20	20	20	19	2019
	9	6	4	3	11	5 9
	2	20	10	1	30	2215
九月一五日敵「モロタイ」島上陸後数次の斬込突入輸送を実施す。 主力「ガレタ」に転進す。同日第一、二中隊連隊に復帰す。 南方軍に隷属。 「ロニー」各隊を「ヘヤホール」地区に集結し一部人員を「ガムラハ」基地に派遣して自活態勢を強化す。 加賀本連隊長独立混成第一六旅団参謀に転出 「ハルマヘラ」に於て終戦						

0766

昭和						年
19						月
11						日
9						日
19	19	19	19	19	19	略
11	10	9	8	5	3	略
9	20	14	下旬	19	30	略
第一中隊は引続き「ブツアン」附近の警備。 米軍「レイテ」に上陸。 浪隊)及材料廠(岩橋隊)は「タリサヤン」に於て警備。 連隊主力は海路「ブツアン」着。第一中隊に合す。第二中隊及び第三中隊(立 「セブ」島残留隊は「スリガオ」に於て連隊主力に復帰す。 連隊主力は「ミンダナオ」島「スリガオ」に移駐し第三十師団の揚陸転進輸送 に従事す。一部は「セブ」に残留す。 船舶兵団の隷下に入り連隊主力は「セブ」島「タリサイ」に第二中隊は「ダラ ゲーテ」に位置し同地附近の警備。 て編成完結。 軍令陸甲第一一二号により独^エ五八の一部を基幹とし比島セブ島「セブ」に於						略
						歴
						略
						歴
						摘要

0767

				昭
	20	20	20	20
	9	5	4	3
	2	10	24	20
状況の急迫に伴い連隊主力「カガヤン」附近の「タゴロアン」に転進。 第三中隊は「カガヤン」に前進、同地に於て戦闘す。 敵「カガヤン」上陸により連隊主力、材料廠第二中隊の一部は戦闘後山中に退 避。 比島に於て終戦。 停戦に伴い戦闘行動を停止し、爾後、生存者は所在の地点に於て武装解除され た後米軍収容所に入る。				
部隊長 中佐 浅野 東				

0768

至 自										昭	年 月 日	略 歴 摘要
20	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19		
4	11	11	10	9	8	7	6	6	5	5		
19	7	7	12	10	18	5	30	26	20	20		
「アンボン」に在りて局地輸送及び警備。 「アンボイナ」島「トレツバ」上陸。 「セラム」島「カリマス」上陸。 「ナビマヨル」島「ワイロウエル」經由。 「ハルマヘラ」島「ドチング」発。 「ドチング」に移駐、警備揚搭作業に従事。 「ハルマヘラ」島「ヘヤホール」上陸警備並に揚搭業務に従事。 「セブ」発。 編成地附近に於いて、次期作戦準備並に警備。 島に於て編成完結。												

船舶工兵第二〇連隊 略 歴

(暁第一六七一六部隊)

0769

昭									
至 自									
	21	21	21	20	20	20	20	20	20
	6	6	6	12	9	8	4	4	3
	13	12	2	30	2	14	20	20	1
南方軍に隷属。 「セラム」島「アフアング」に移駐。 「セラム」島に在りて局地輸送及び警備。 「セラム」島に於いて終戦、爾後終戦処理業務。 「セラム」島「ホアマル」半島集結。 「セラム」島出発。 名古屋上陸。 復員 部隊長 少佐 平嶋三樹									

至自		至自		至自		至自		至自		昭
20	2019	19	19	19	19	19	19	19	19	19
3 2	1 12	12 12	12	10	8	8	6	5	5	
8 9	8 25	20 7	7		31	30	17	29	20	
軍令陸甲第四二号に依り柳井に於て編成完結。 門司港出発。 「マニラ」上陸。 「マニラ」港出発。 「バタン」半島「マバヨ」着。比島各島間の軍需品輸送業務に従事。 「レイテ」島「オルモック」に於て揚陸作業に従事 米艦「オルモック」湾に侵入。「レイテ」防衛陣地に就く。 水際第一線陣地に於て戦斗（損害約一五〇名） 爾後中央山脈に移動す。 「バレンシヤ」に於て戦斗（損害約四〇〇名） 敵の揚陸を「ティブル」に迎へ戦斗。爾後「ロモーン」山に転進。軍命に依り「カンギボット」山に集結。										年 月 日
										略
										歴
										摘要

船舶工兵第二一連隊

(暁第一六七七七部隊)

略歴

0771

	20	20
	9	6
	2	30
米軍の包囲を受け斬込み戦に移行。全滅状態となる（生存者三名） 「レイテ」島に於て終戦。 停戦に伴い戦斗行動を停止し、生存者は所在の地点に於て武装解除を受けたる 後米軍収容所に入る。 部隊長 少佐 浜 蘭 忠 夫		

0772

船舶工兵第二二連隊 (暁第一六七四〇部隊)	年 月 日	19	20	19
		6	8	6
		26	15	
略 <				

0773

昭和									年
20	20	20	20	19	19	19	19	19	月
9	6	5	4	7	7	7	6	6	日
2	28	12	1	14	11	5	30	26	日
船 舶 工 兵 第 二 三 連 隊 略 歴									
(暁第一六七四一部隊)									
略 歴									
軍令陸甲第六九号により特船工二三を基幹とし和歌山船舶工兵第九連隊補充隊 において編成完結。									
宇品出発。									
鹿児島寄港。									
那覇上陸。									
那覇出発、嘉手納到着、同地に駐屯。揚陸作業に従事。									
米軍上陸。									
第三中隊は西原陣地へ移動同地守備。									
西原陣地を撤し大里陣地へ移り同地を死守し玉砕す。									
牧港附近に於て終戦。									
停戦に伴い戦斗行動を停止し爾後生存者は所在の地点に於て武装解除された後									
摘 要									

米軍収容所に入る。

0775

船舶工兵第二四連隊							年月日	略	歴	摘要
昭	19	19	19	19	19	19				
7	7	8	7	7	7	7				
3	16	19	30	下旬	上旬	中旬				
船舶工兵第二四連隊幹部要員熊沢少佐以下一〇〇名和歌山船舶工兵第九連隊補充隊に集結し宇品に於て「ヤトル丸」に乗船出発。 「バシー海峡」に於て雷撃を受け「ヤトル丸」沈没す。 「マニラ」上陸（約七〇名）。 軍令陸甲第六九号に依り右人員と船舶工兵第一野戦補充隊及台湾第八四部隊よりの編成要員とを合し「マニラ」市に於て編成完結。 連隊本部、第一中隊及び材料廠は「アバリ」に進駐、第二中隊は「サロマゲ」第三中隊は北「サンフェルナンド」に移駐し対潜掃蕩並に揚陸作業に従事。 連隊主力は「マニラ」市に集結、一部を「アバリ」に残置。第三中隊は北「サンフェルナンド」に残置。各々「レイテ」輸送作戦に参加。 山口県柳井の補充隊より約二〇〇名の補充員到着。										

0776

至自						
20	20		20	20	20	19
9	6		2	2 1	1	12
2			下旬	中下旬	上旬	
台湾第八四部隊より武田中尉以下約一二〇〇名の補充員到着、この中二〇〇名は北「サンフェルナンド」に上陸、第三中隊に編入。他は「マニラ」に於て連隊長の指揮下に入る。 連隊主力は「ラグナ」湖附近の作戦に参加、主として振武、尙武集団の集結援助。 約五〇〇名を以て臨時工兵第一、第二、第三中隊を編成し振武集団長の指揮下に入らしむ。後第二、第三中隊を工兵第八連隊に転属す。 より連隊本部、第二中隊、材料廠は振武集団長の指揮下に入り「ボンボン」附近の戦斗に参加。第一、四中隊は「ラグナ」湖舟艇輸送を実施し「ルイシアナ」に於て停戦に至る。 連隊主力は「ラグナ」湖東方地区に於て玉砕す。 比島「ルソン」島に於て終戦。 停戦に伴い戦斗行動を停止し生存者は所在の地点に於て武装解除を受けた後、米軍収容所に入る。						

0777

						至自
						2019
						2 8
						14
少佐 熊沢 酒造助 部隊長	20	20	20	20	20	「第三中隊の行動」 北「サンフェルナンド」に在りて輸送任務遂行中二〇年一月廿日より「サント トマス」への逆上陸作戦に参加。全舟艇を失いたるため陸上戦斗に移行。虎兵 団長の指揮下に入り「カガヤン」地区に於て戦斗参加。 「バクロアン」に転進。 「バクロアン」に於て終戦。 「アバリ残留隊の行動」 まで「アバリ」に在りて輸送任務を続行中「サンタマリヤ」附近に於て全舟艇 を失い爾後「カサブランカ」に転進。 「マダリン」に転進。 「ゴンザカ」に於て終戦。
	9	7	5	9	6	
	2	下旬	下旬	2	上旬	

0778

昭和							年 月 日	略 歴	摘 要
20	20	19	19	19	19	19			
1	1	12	12	12	12	7			
5	3	29	26	25	19	5			
連隊主力「ラボック」港に進出。 アゲニ」に転進す。 部通信隊一〇名を北「サンフェルナンド」に残置し、連隊主力は秘匿港「エチ 第一、二、三中隊及材料廠 三船司令に依り第三中隊、第一中隊、竹村少尉以下七〇名、材料廠一五名及本 北「サンフェルナンド」に上陸。直ちに虎兵団の揚陸作業に従事。（連隊本部、 に転属し約二〇〇名を同地に於て補充す。 高雄港出発。第二中隊は高雄に於て佐藤少尉以下五六名を船舶工兵第三〇連隊 高雄港着。 日向丸に乗船門司港出発。 軍令陸甲第六九号に依り特設船舶工兵連隊を基幹として宇品に於て編成完結。									

船舶工兵第二五連隊

(暁第一六七四三部隊)

略歴

0779

至自							
20	20	20	20	20	20	20	20
9	4	2	2	2	11	1	1
2	1	15	11	3	3025	25	10
三船司令に依り本部、第一の一部、第二中隊及び材料廠は海上数梯団となり、 「アバリ」向け「ラボック」港出發。（第一中隊主力は同地に残置）。第三中 隊は第三梯団となり北「サンフェルナンド」出發。 「ペンキヤン」到着。第三中隊は尙武兵団兵砦監の指揮下に入る。 転進部隊「アバリ」に到着。 尙武派作命第三七号に依り第三中隊、第二小隊、（高橋小隊八〇名）は中隊よ り独立して勤兵団に配属さる。 「ラボック」残留第一中隊主力は艦砲射撃に依り大発全部を失い三月末迄「ラ ボック」に在り。 高橋隊「カワヤン」に到着。同地勤兵団下予田大隊の指揮下に入り「パラナン」 に進出。爾後戦兵団に配属され「リトボン」「リマセレ」に転戦。 「アバリ」転進部隊は更に「ボンドック」に転進。「サバンガン」にて虎兵団 と合し爾後同兵団と同行動し「ブルブル」山附近に転進。 比島「ルソン」島に於て終戦。							

0780

停戦に伴い戦斗行動を停止し、生存者は所在の地点に於て武装解除を受けた後米軍収容所に入る。

部隊長

少佐 中村喜

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>